

項目	内容
名称	ゲッケイジュ、ゲッケイヨウ、ベイリーフ、ローレル [英]Sweet bay、Bay leaf、Bay、Laurel [学名]Laurus nobilis L.
概要	ゲッケイジュは、南ヨーロッパ原産で、よく使用される料理用のハーブである。一方、中国などでは生薬としても使われ、煎液はフグを誤食したときの解毒薬に用いられる。果実などの精油は整髪料の香りつけや虫除け、抗菌剤として利用されている。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲッケイジュ (ゲッケイヨウ/ベイリーフ/ローレル) 葉：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。 <p>■ 食品添加物</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存添加物 香辛料抽出物 (スパイス抽出物/香辛料/スパイス)：苦味料等 天然香料基原物質リスト ローレル (ゲッケイジュ) が収載されている。 <p>■ 海外情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 米国では、GRASに該当する。
成分の特性・品質	

主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> ・葉は精油1~3%を含み、主にシネオール、オイゲノール (eugenol)、メチルオイゲノール (methyleugenol)、グラニオール、果実には脂肪油25%とシネオールなどからなる精油1%を含む。その他タンニン酸、苦味質など。 ・薬用部分は果実、葉。葉は薬用以外に香料やソース等の原料などになる。高さ20 mの常緑樹。樹皮は黒褐色、果実は暗褐色である。地中海地方原産で広く栽培されている。乾燥した葉が使用される。精油は広く知られており、葉と小枝の水蒸気蒸留で得られる。油含量は秋がもっとも多く、春が少ない。
分析法	<ul style="list-style-type: none"> ・精油成分が水素炎イオン化検出器 (FID) を装着したガスクロマトグラフィーにより分析されている (101)。
有効性	
循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
ヒト 生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
での 脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
の 免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	<p>(29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館 (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (23) 天然食品・薬品・香粧品の事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳 (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について) (101) J Ess Oil Res. 1989;1(4):199-200. (PMID:17577382) Contact Dermatitis. 2007 Jun;56(6):360-1. (PMID:25933076) Dermatol Online J. 2015 Apr 16;21(4). pii: 13030/qt4gm9g7rk. (PMID:25753052) Contact Dermatitis. 2015 Jun;72(6):417-9. (PMID:27058630) J Ethnopharmacol. 2016 Jun 20;186:209-23.</p>